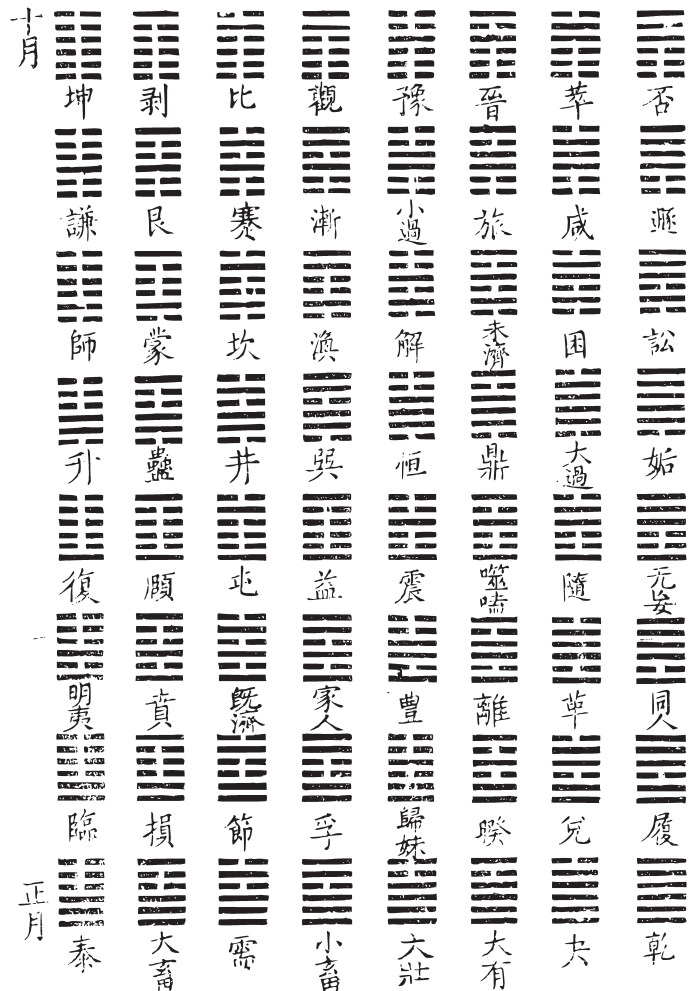


# 六十四卦方圖

七月

四月



# 「運」は偶然か、必然か？ 宗教の思考

中村圭志 (宗教研究者)

「運」について考えるとき、「宗教」を無視することはできないだろう。古来、人々は万事の背後に「神」や「悪魔」といった超越的な存在の働きを感じてきたのだから。宗教研究者の中村圭志が、「運」をめぐる宗教的思考の変遷を解き明かす。

清代中国の百科事典『古今圖書集成』(1725) 所収の六十四卦の図。易の卦には右下端の「乾(けん)」から左上端の「坤(こん)」まで64パターンがある。1本の線で陽を、断裂した線で陰を表わし、陰か陽かの二項対立を6回重ねて「卦」とする。全体で2の6乗で六十四卦となる。『易経』は欧米でもBook of Changesとして知られ、スピリチュアルな人々に人気がある。

現代人が「運」を語る場合、「偶然」のニュアンスで言っている場合が多いように思います。「成功の理由は努力か、運か？」のような言い方は、現実的に因果がたどれる「努力」というものと、そうした因果がたどれない、つまり偶発的に生じたような「運」というものが対比されています。「Beginner's Luck(初心者のおツキ)」

のような表現も、「うまくいったのは本人の実力じゃなくて、ただの偶然だよ」という意味合いで使う人が多いようです。

しかし、「偶然」というのは現代人の思考です。「運」や「fate(運命)」という言葉をつくり出した古代の人々の感覚では、おそらくこの世に「偶然」などというものはなかったでしょう。なにせ彼らは、世界には神祕の次元があつて、そこに潜む秘密の法則(因果応報、陰陽の転変、星の配置など)、あるいはカミガミの意志の働き(運命の女神の決定、聖人の守護、神の奇跡や裁きなど)が、人間の人生に必ずや影響を与えていると考えていたのですから。

今日でも、宗教的な人はこれに近い感覚で生きています。「運」という漢語は、人生ドラマにおける物語の運びを意味します。大和言葉では「めぐり合わせ」「仕合せ」と言います(仕合せはすなわち幸せですから、幸運に限った言い方となっています)。「運ぶ」とい、めぐるとい、シチュエーションの転変のようなものがイメージされています。シチュエーションの変化の勢い(モーメント)を「運勢」と言い、そうした転変をもたらす重大な帰結のようなものを「運命」と言います。

そして私たちの先祖様たちは、そうしたシチュエーションの変化を、偶然ではない、何らかの必然の動きと考えました。

たとえば、「運勢」を陰と陽のエネルギーの變化がもたらす、一種の物理的必然と考えました。それを把握するために筮竹占いをして、『易経』をひもといたのです。そこには六四種のパターンが書かれていて、それらを読み込むことで、自己をめぐる過去・現在・未来のシチュエーションの變化を解説しました(「易」とは變化のこと)。

このように、世界を「目に見える次元」と神や靈魂や先祖が住まう「目に見えない次元」の二つに分けるのが、宗教のロジックの基本です。陰陽、業、氣、梵などの神祕的エネルギーの存在を前提とする東洋思想も、そうした宗教的ロジックのバリエーションということになります。もちろん、運勢を占ったり運命について語ったりしたのは東洋人ばかりではありません。西洋占星術も、機能的には易に近いものです。

## 英語の「運」

「運」をめぐる語源的探索を、もう少し続けましょう。日本語の「運」「運命」にあたる英語に

は、語源の異なる複数の語があります。標準的なのはfortuneでしょう。これは古代ローマの多神教における神々のお告げfaunaに由来する言葉で、キリスト教化されたのちも使われています。カルマや易のような神祕の作用によつてではなく、神様によつて人間の運・運命が司られているという世界観を表わしています。「it's a「割り当て」を意味し、割り振られたものとしての運や運命を表わします。

destinyは語源的に「確立する」という意味を含んでおり、すでに決定されて変えられない運命を意味します。やはり神様が決めたことなんです。この由々しい感じが高じるとdoomとなります。この言葉は破滅的な運命を意味します。

fortuneは幸運という意味合いが強いけれども、運一般も意味し得ます。フォルトウーナと言えばローマ神話の運命の女神様です(Torの部分は「ファイル転送」などのtransferのferと同じく「運ぶ」を意味します)。

luckも幸運のニュアンスが強いですが(グッド・ラック! ラッキー)、運や運命の一般的な意味も表わします。

日本語と英語とはニュアンスに違いはありますが、いづれにせよ、異次元界に籤やガチャ